

2016建設リサイクル技術発表会・技術展示会 開催報告

(主催)建設副産物リサイクル広報推進会議、関東地方建設副産物再利用方策等連絡協議会
(後援)国土交通省、3R活動推進フォーラム、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

建設リサイクル技術発表会・技術展示会は、建設リサイクルの更なる普及と促進にむけて、関係者に対する意識啓発と建設リサイクルの推進に有用な技術情報等の周知・伝達、技術開発の促進、一般社会に向けての建設リサイクル活動のPRを目的として毎年開催しています。

今年は、『キックオフ「2020年 日本の建設リサイクルは新たなステージへ ～ 東京から全国そして世界へ発信 ～」』をテーマに開催しました。

【技術発表会】

日時：平成28年10月5日(水) 13:00～16:45
場所：一橋大学 一橋講堂
参加者数：約280名



プログラム

13:00 開会
開会挨拶

建設副産物リサイクル広報推進会議会長 北橋 建治
(一般財団法人 先端建設技術センター 理事長)
関東地方建設副産物再利用方策等連絡協議会 委員長 大西 亘
(国土交通省関東地方整備局 局長)

来賓挨拶

国土交通省大臣官房参事官 七條 牧生 氏

13:10～14:00 特別講演

「建設材料の資源循環に関する現状・指針・提言 ―建設リサイクルの是非と理想―」
東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 教授 野口 貴文 氏

14:00～14:40 建設リサイクルへの取り組み工事の事例発表

鹿島建設 株式会社

「中央環状品川線シールドトンネル(北行)工事

工期の短縮を踏まえた廃棄物抑制・排出削減の工夫」

株式会社 竹中工務店

「東関東支店ZEB化プロジェクトにおける、

施工段階を含めた「オール0(ゼロ)」実現への取り組み」

国土交通省四国地方整備局 高知河川国道事務所

「高知海岸における耐震・液状化対策」

株式会社 大林組

「建物特性、敷地特性を活かした3R活動」

14:40～14:50 《 休憩 》

14:50～15:05 大学生建設リサイクルワークショップ報告

15:05～16:35 パネルディスカッション

パネリスト(五十音順)

内山 理映 氏 株式会社 大林組 東京本店八王子館シールドJV 工事事務所 工事長

勝見 武 氏 京都大学大学院地球環境学堂 教授

杉本 健一 氏 三井不動産 株式会社 社会・環境推進室長

田中 里沙 氏 株式会社 宣伝会議 取締役

野口 貴文 氏 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 教授

コーディネーター: 吉田 延雄 (一財)先端建設技術センター 理事兼企画部長

施策報告: 東京都都市整備局都市づくり政策部「東京都建設リサイクル推進計画」

16:35～16:45 技術展示表彰式

16:45 閉会



【技術展示会】

日時：平成28年10月5日(水) 10:00～17:00
平成28年10月6日(木) 9:30～16:00

場所：一橋大学 一橋講堂 中会議室2～4

来場者数：約300名(2日間)

技術展示表彰: 出展技術の中から優れた技術に対して、関東地方建設副産物再利用方策等連絡協議会委員長より優秀賞が授与されました。

- ・株式会社 竹中工務店(ZEB化改修工事、モルトール、ECMセメント・コンクリートシステム)
- ・木材活用地盤対策研究会(丸太打設液状化対策 & カーボンストック工法-LP-LiC 工法-)



※6日は、同会場で国立研究開発法人土木研究所主催「平成28年度土木研究所講演会」開催

【技術発表会】

■特別講演

「建設材料の資源循環に関する現状・指針・提言 ―建設リサイクルの是非と理想―」
東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 教授 野口 貴文 氏



野口教授は、コンクリート、鋼材等各種建設材料の資源循環の現状、それら建設材料・建材製品の空間移動の現状の説明後、将来は資源枯渇が重要な課題となると指摘。既に自動車産業等他産業では設計段階からの省資源・リサイクルへの取り組みが始まっており、建設産業においても、完全リサイクルコンクリートを例に建設材料のクローズドループリサイクルへの転換、解体時にリサイクルできるしきみを設計段階で取り入れることが将来の建設産業の目標であるべきと提言しました。

■大学生建設リサイクルワークショップ報告

建設リサイクルの「理解と参画」を進める一環として、9月13日に大学生16人を対象に初めて開催した「建設リサイクルワークショップ」結果を3人の代表が報告しました。報告いただいた、建設発生土の利用先アイデア、建設汚泥再生品の利用先アイデア、再生骨材の利用拡大アイデアは、いずれも大学生ならではの発想によるもので、建設リサイクルの新たなステージに向けて非常に示唆に富む内容であり、パネルディスカッションでもパネリストの皆様からも絶賛されました。

■パネルディスカッション

建設リサイクルの新たなステージへ向けたキックオフとして5人のパネリストに議論いただきました。

大林組の内山氏は、東日本大震災復興事業である気仙沼市の水産加工団地造成工事での経験に基づき、建設発生土の計画的なマッチング、コンクリート塊の自ら利用による確実な利用先の確保、抜根材の新たな用途の開発による利用先の多様化確保が必要であること、さらに新たなステージに向けては、複数の工事現場、施工会社、発注者が一体となった取り組みを提案しました。

三井不動産の杉本氏は、「経年優化」のコンセプトに基づく様々な都市開発事業の中でも霞が関ビルを例に設計段階での長寿命化への取り組みが建設副産物発生抑制に資すること、さらに今後はLCCO₂の視点が市場において重要であり、建設業界の施主への積極的な提案を期待したいと発言しました。

宣伝会議の田中氏は、市民・社会・広報の視点から、共通目標・循環型社会の一翼を担う意識の提示、新しいマーケットの創造、そして生活者と共有可能なビジョンを市民と「共創」していくことを提案しました。大学生から提案があったリサイクル製品の認知度向上には、対象者のニーズに合わせリサイクル製品を使うことによるステータスアップ戦略が必要と指摘しました。

京都大学の勝見教授は、地盤工学の専門家の立場から「安全、安心」な建設発生土リサイクルを提案しました。「安全」では、自然由来重金属含有土について知恵と工夫での利用、そのための「リテラシー」向上、「安心」では、ITを用いたトレーサビリティの確保が必要であり、さらに、国土整備のあり方を踏まえ、建設リサイクルを社会技術と国土整備計画の一部に取り込んでいくことを提案しました。

東京大学の野口教授は、特別講演内容を補足する観点から「低環境負荷のクローズドループリサイクル」を実現するため、静脈産業の適正配置、リサイクル建材のブランド化、経済性も考慮した資源循環を達成するしきみ構築を提案しました。



【技術展示会】

以下の32団体により、展示が行われた。

	ブース	出展者	主な工法名あるいは、技術名
1	A-1	エポコラム協会	エポコラム工法 -Loto 工法、Taf 工法、Pls 工法-
2	A-2	株式会社 トウザキ	「資源ストック型完全循環コンクリート」 (骨材全量に石灰石骨材を用いたコンクリート)
3	A-3	東急建設 株式会社	①STREX 工法 ②自然由来重金属含有細粒土の浄化技術
4	A-4	新日鉄住金エンジニアリング 株式会社	NSエコパイル
5	A-5	パワーブレンダー工法協会	パワーブレンダー工法
6	A-6	内田産業 株式会社	超大型モノレール運搬システム
7	A-7	株式会社 竹中道路	IH 式舗装撤去
8	B-1	株式会社 竹中工務店	ZEB 化改修工事、モルトール、 ECMセメント・コンクリートシステム
9	C-1	星揮 株式会社	再生骨材コンクリート用の粗骨材、細骨材の 生産技術
10	C-2	安藤ハザマ	ガランダム工法／アッシュクリート Type II TypeS/ LHC [®]
11	C-3	光洋機械産業 株式会社	余剰生コン団粒化
12	C-4	株式会社 ウッドプラスチックテクノロジー	養生用敷板 Wボード
13	C-5	認定特定非営利活動法人 全国木材資源リサイクル協会連合会	木材資源のリサイクルの推進
14	C-6	恵和興業 株式会社	造粒固化技術
15	C-7	石坂産業 株式会社	建設混合廃棄物に含まれる土砂を 再利用した盛土材「NS-10」
16	C-8	清水建設 株式会社	災害廃棄物を材料とした造粒再生碎石の製造技術 ／バイオニュートラル工法
17	D-1	木材活用地盤対策研究会	丸太打設液状化対策&カーボンストック工法 - LP-LiC 工法 -
18	E-1	株式会社 オクノコトー	万能土質改良機による建設発生土再利用システム
19	E-2	ボンテラン工法研究会	泥土リサイクル技術 ボンテラン工法
20	E-3	一般社団法人 泥土リサイクル協会	高含水泥土の有効利活用
21	E-4	青木あすなろ建設 株式会社 株式会社 グロースパートナーズ	瞬間吸水材「セルドロン」
22	E-5	一般財団法人 日本建設情報総合センター 建設副産物情報センター	建設副産物情報交換システム・ 建設発生土情報交換システム
23	E-6	一般社団法人 日本汚染土壌処理業協会	DENKAN・DME 工法
24	E-7	五洋建設 株式会社	吸水性泥土改質材「ワトル」
25	E-8	ネッコチップ工法研究会	ネッコチップ工法
26	E-9	緑商事 株式会社	土壌改良・土壌浄化や水質浄化、 有機系・可燃系廃棄物・廃プラによる発電
27	E-10	回転式破砕混合工法研究会	回転式破砕混合工法による 建設発生土リサイクル技術
28	E-11	S.P.E.C. 株式会社 城南島エコ・リレーションセンター	産業廃棄物・汚染土壌の中間処理施設 エコレ城南島のご案内
29	F-1	八千代エンジニアリング 株式会社	建設リサイクル法情報共有システム
30	F-2	公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター	廃棄物処理法に基づく電子マニフェスト
31	F-3	関東地方建設副産物 再利用方策等連絡協議会	建設副産物のリサイクル推進
32	F-4	建設副産物リサイクル広報推進会議	建設副産物のリサイクル推進